

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1092700010
法人名	特定非営利活動法人 旭会
事業所名	グループホーム 月夜野宿
所在地 (電話番号)	群馬県 みなかみ町 下牧 1128-3 (電話) 0278-62-1101
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県 前橋市 大友町 2-29-5
訪問調査日	平成 20年 7月 9日

【情報提供票より】(20年5月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算	4.2 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ <input checked="" type="radio"/> 単独	新築/ <input checked="" type="radio"/> 改築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(<input type="radio"/> 円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(<input checked="" type="radio"/> 200,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月21日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	名		
年齢	平均 84歳	最低 49歳	最高 100歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(加瀬 竹内 関歯科) 医院、沼田脳神経外科、沼田クリニック、沼田歯科口腔外科病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境に恵まれたホームで、ベランダの下には利根川が広がっていて、川のせせらぎを聞きながら生活をする事が出来る。反面玄関は交通量の多い道路に面しているために、利用者の安全に関してホームとして最善の方法をとっている。それでも、小鳥を飼ったり、自然の風や川の流れの音、野鳥のさえずり等で利用者に情緒面での安定が保たれているように見受けられた。代表者の想いの理念に基づき、代表者・職員は具現化に向け、利用者に添った支援をする取り組みを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点はなし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員から意見を聞き、代表者が作成をした。前回の評価を土台として取り組む姿勢がうかがえる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度開催されている。事業所からは利用者の状況や外部評価の報告等を行っている。代表者は家族の意見や地域の意見を聞いている。地域の人たちからも情報や行事の案内があり情報の交換が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	代表者は家族や本人、地域などの意見や苦情等を大切なものと捉え、現在のホームのサービスに満足することなく、意見・苦情などを聞く姿勢がある。終末期の家族の不安に対しては、選択の出来る同意書などで、要望に応えるよう努力して、サービスの向上に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議、みなかみ町高齢者等支援ネットワーク事業、保育園、公民館活動などには利用者が参加している。地域の芸能祭、敬老会などにも参加している。会議などでは地域の情報交換がされていて、利用者の外出サービスなどに繋がっている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関やホールに理念が張られている。誰にでも見やすいようになっている。人としての尊厳と自立が謳われ、管理者は職員に理念が大切な事を常に話している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は会議の時やミーティングで理念について職員に理解できるように話している。「人の尊厳について」「利用者の自立について」「接遇について」等、職員と理念の共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開かれる行事には積極的に参加している。公民館で行われる敬老会に誘いを受けている。町で行われる芸能祭・文化祭には作品を出展し、保育園の運動会に参加している等で地域の人々との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果に基づき、職員と話し合い、意見を求めて管理者が記入した。職員は評価の意義を理解しており、今に満足をしなくて、改善は日々あるものと考えて支援している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所から外部評価結果を参加者に配り、主要なところを取り上げて説明を行っている。参加者に意見、苦情なども話してもらえよう心配りをしている。会議後の情報交換も意義あるものとなっている。会議は定期的に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	みなかみ町高齢者等支援ネットワーク事業に参加しており、地域との連携事業に参加している。ホーム側からも町には積極的に出向いている。月に1度地域ケアマネ会議に参加し、相談、情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは毎月1回請求書の郵送時に介護記録のコピー等を同封し、日常生活や健康状態を報告している。家族の訪問時にもスナップ写真をテレビで見てもらい、普段の生活を報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は常に家族からの意見を聞く機会を作り家族の気持ちを知りたいと思っている。運営推進会議にも家族の代表者が参加している。家族会の設立を家族に持ちかけている。管理者は家族からいつでも意見を聞ける体制を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員の異動は今までに無い。管理者は採用後現場での研修を行い、利用者に対しての対応などを教育している。利用者へのダメージは最小限にするよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員は研修に参加している。管理者研修、実務者研修、地域密着型連絡協議会の研修等に参加している。地域密着型連絡協議会の交換研修等、管理者は積極的に研修に参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者等支援ネットワーク事業への参加をしている。地域密着連絡協議会に加入しており、交換研修を行っている。情報交換や交流を図る取り組みがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規利用者の入所を安全なもの、又、安心したものにするために、お試しの期間を設けている。利用者が自分に合ったホームを見極めて納得してから入所できる。入所に対して拒否のある人には管理者や職員が馴染みの関係を作り利用に結び付けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として、花の栽培方法、農作物の作り方、食材の料理方法などを教えてもらい、感謝の言葉を添えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から直接聞いたりしている。又自分で言えない利用者に対しては態度や行動などを観察し、その人の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	看護師、ケアマネを中心として家族の面会時などに本人・家族の意向を確認をしている。又職員の意見も取り入れ介護計画に反映させ、介護支援専門員が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の現状に変化があった時、計画の変更を行っている。又年に1度の見直しと介護度の変化があった時の見直しを行っている。評価は日々の介護の記録により行われている。	○	介護計画は支援の中心であり誰が支援しても同じサービスが受けられる計画でもある。日々の変化により計画の見直しが検討されているが、3ヶ月に1度の見直しと毎月のモニタリングにより、計画の作成がなされることを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の支援をしている。原則家族だが家族の都合がつかない時などは事業所に対応している。また美容院、買い物など希望があれば柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のそれまでのかかりつけ医となっている。家族の希望を聞き利用者の病状によって協力医療機関に変更する事も出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は看護師であり、すでに重度の人のケアを行った経験がある。終末期に関しては家族からは希望を聞いて、選択してもらい、同意書を取り交わして、家族の想いを最大限かなえたいと努力を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員にプライバシーについて話をしている。職員は会話などにも利用者の尊厳を傷つけないよう配慮している。部屋に入る時は声を掛け、利用者が他の人の部屋に入る時にも気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの今までの生活と個性を尊重しながら、職員はその人の暮らしを支援している。事業所で決められているのは食事とお茶の時間でそのほかは個人の生活を見守りながら、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の希望を取り入れて、立てられている。野菜は菜園があり、収穫には利用者は楽しみながら参加している。食事は手作りであり、材料は菜園のものが使われている。後片付け、野菜の皮むき等、利用者も参加している。職員は利用者と共に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った入浴の支援がされている。入浴は夕方からであり、日常生活の延長が維持されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに役割があり、モップ掛け、畳の雑巾がけ、洗濯物たたみ、野菜の皮むき、洗濯干し等がある。毎日の百人一首や、書道、絵画、ドリル、塗り絵、紙細工、歌、体操など楽しみごとがある。デッキでの食事、お茶など自然の中での気晴らしの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、りんご狩り、ドライブ、食事会など健康面が許す限り、外に出る支援をしている。重度の利用者に対しても、ホールからベランダに出てもらい外気に触れるなどの支援をしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在玄関の鍵は利用者の安全のために施錠されている。玄関の前は交通量の多い道路であり、徘徊の人などの危険が予想されるためである。散歩などは玄関からではなく、職員が通常利用している出入り口から行っている。	○	玄関から交通量の多い道路までは距離が短く、利用者の安全を確保する事としての施錠は理解できるところでもあるが、施錠による利用者の精神的な閉塞感や職員の見守りの観察力の低下などを考えると、やはり開錠に向けての努力を期待する。玄関上がりかまち周辺の改築も行われ、これからの開錠に向けての取り組みが期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回の避難訓練を行っている。消防署と協力して防災訓練もある。又救急の訓練も行っている。両隣の家には災害時避難の協力依頼をしてある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりのチェック票があり、食事量と水分量の記録がある。水分は1日1200mlを目安に記録を活用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの中心に円テーブルがあり、上段が回転式になっている。お互いの顔がよく見え、利用者の集う場所となっている。そのほか食堂の隣には掘り炬燵があり静かな時間を過ごす事が出来、デッキに出ると木漏れ日を浴びる事も出来る。事業所で小鳥を飼っていたり、川のせせらぎ等で利用者の精神面の安定を図っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、それぞれ個人の持ち込みの設えとなっている。椅子、ベッド、布団、整理箱など一人ひとりの個性があふれたものになっている。本人に合った部屋を作り上げている。		